

「学びに向かう力・人間性等」を育む授業づくり ～自ら課題設定し、学習を調整しようとする子の育成～

五泉市立愛宕小学校

1 NIE実践のねらい

(1) 当校の児童の実態

① 授業における「課題設定」の主体性

当校の実態として、教師が示した「課題」に対しては、素直に取り組む児童の姿が見られる。その一方で、自ら「調べてみよう!」「これはどうなるのかな?」「相手に伝わりやすくするためにどうしたらいいのかな?」と主体的に課題設定をして、学習に取り組む姿があまり見られない。

② 授業の学びを生かそうとする力

当校では、自主学習の充実を推奨しており、やり終えたノートの冊数に応じて表彰を行っているため、家庭学習で宿題に加えて自主学習に取り組む児童が増えてきている。しかし、その内容は漢字ドリルや計算ドリルが中心で、やるべきことが明確である反復練習に偏りがちな傾向が見られる。そのため、自ら課題意識をもって、主体的に家庭学習を進めている児童は少ない。また、授業での学びがその場で終わってしまい、その考え方を使得って発展させたり、さらなる課題につなげられなかったりする児童が多く見受けられる。「数字を変えてみても、授業で発見したきまりは使えるのかな」「この方法は他のことにも使えるのかな」「授業以外にも、私が見つけた愛宕地域の良さは何か」と学びを生かそうとする力を養っていく必要がある。

(2) 目指す児童の姿

① 『学びに向かう力・人間性等』を育んだ児童

- ・得た学びから、「ほかにも同じことが言えるのかな」「～だったらどうなるのかな」と自ら新たな課題を生み、学びを続けようとする。
- ・授業中に獲得した学びを、授業内、学校内で留まらず、生活や社会に発展させ、生かそうとする。

② 自ら課題設定し、学習を調整する児童

- ・児童自らが学習の主人公となり、「なぜだろう」「調べてみたいな」と主体的に課題設定をしようとする。
- ・知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取組を行おうとする中で、自らの学習を試行錯誤する等の調整をしようとする。

(3) NIE実践から研究主題へのアプローチ

新聞記事を授業で取り上げることは、児童にとって新潟県や五泉市など自分たちの身近な話題に触れる貴重な機会である。どこか遠い場所の話で

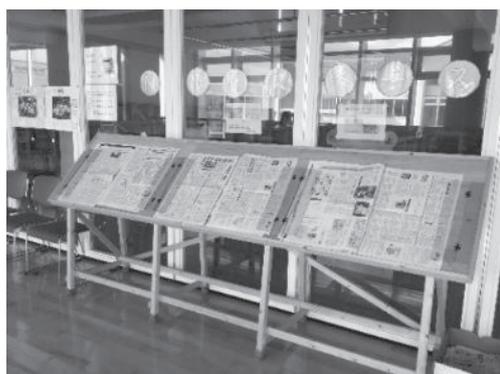
はなく、「新潟県でこんな取組をしているなんて初めて知った」「教科書で学習したことが、自分たちの住む五泉市でも同じことが言えるのか」「新聞記事では新潟県のことを書いてあったな。記事で出ていた以外にも自分でさらに調べてみたい」と、自分事として捉えることができることが、新聞活用の最大のメリットであると考えます。授業での学びが私たちの生活している社会と密接に結びついていることを児童に捉えさせたい。そして、自分が学習の主人公となり、主体的に学習に取り組む姿が期待する。

以上のような点から、愛宕小学校ではNIE実践を授業はもちろん学校生活の中に柔軟に取り入れ、目指す児童像に迫る教育活動を行っていく。

2 本年度実践の概要

(1) NIEスペースの設営

1年次から継続しての取組である。図書室前に新聞が閲覧できることが愛宕小学校での当たり前前の風景になってきた。スポーツ欄が気になる子、写真が気になる子、昨日のテレビニュースで耳にしたことを新聞記事で改めて読んでみる子、新聞との向き合い方は様々ある。今年度も新聞の掲示を図書委員の仕事に位置付け、毎朝の新聞交換の作業を行っている。



愛宕小学校では、新聞を休み時間に見たり、新聞で授業の準備のをしたりできるようにしました。新聞を手取る回数を増やしましょう！

新聞の良さ①
世の中のことが知れる→自分の興味あることを知れる→やる気UP!

新聞の良さ②
漢字をたくさん知れる→授業で習う前に知れる→授業が復習に!?

新聞の良さ③
言葉(言い方)をたくさん知れる
→話し言葉、書き言葉が増える→会話、作文がスムーズ!

(2) 子どものNIEタイム

① 各学年の取組

1年次は、新聞に慣れ親しむために、児童一人一人が新聞を手にとってみるNIEタイムを設けた。2年次は、それぞれの学年が発達段階や学年の実態に合わせて新聞を活用した取組を行うことにした。

1 学年

○新聞で季節の写真探し

生活科の秋探しとして、新聞の地域欄などから秋を感じる写真を探す活動を行った。「シャインマスカット」「柿」「新米」などの農産物や、秋の田んぼ、紅葉などの風景、ハロウィンや作品展など秋の行事の写真を用意して探していた。

○ニックちゃんクイズ

新潟日報のニックちゃんクイズの簡単なものを学級全員で見て答えた

り、新聞の写真から、「何をしているところでしょう。」「誰でしょう。」と問題を出して、記事を紹介した。オリンピックの記事を紹介した時には、「知ってる。」「テレビで見てたよ。」「この人は〇〇の選手で、金メダルを取ったんだよ。」等、自分の知っていることを話す児童が多かった。

2 学年

○ふむふむタイム

週1回、朝学習の時間に、「ふむふむタイム」を設け、新潟日報「ふむふむ」を読んでいる。主に、クイズ形式でランキングを予想したり、ニックちゃんクイズに答えたりして、楽しい雰囲気で行っている。それらの記事やクイズには、説明やコメントなどが付随しており、それらを読むことで、知識を得たり記事に関する興味をもったりすることができた。



3 学年

○新聞記事を読んでみよう

児童が興味を示しそうな記事を教師が選び、読み聞かせをしたり、個々でじっくり読んでみたりして簡単な感想を書く活動に取り組んだ。新聞記事としては、オリンピック・パラリンピックのことや3年生でも読みやすい『ふむふむ』から選ぶようにした。連日、オリンピック・パラリンピックに関するテレビ報道もされていたこともあり、内容理解がしやすかった。また、新しいことわざを知ったり、身近な地域の出来事も記事になっていることに気付いたりすることができた。



4 学年

○新潟日報の記事を読んで感想をもつ

現在4年生は総合の学習で環境問題について調べ学習を進めている。そこで、関連のある記事「減りゆく身近な鳥」が新潟日報に記載されていたため、タブレットのロイロノートを使用して配付した。未修得の漢字が多いため、スクリーンに大きく映し出し、担任が読んで聞かせた。その後、ロイロノートに感想を記入し提出させ、集約した。何人かを指名し感想を発表させた。同じ記事を読んでも、様々な感想があることに驚いてい



た。日本でも身近な生き物が減っているという事実に触れる良い機会となった。

○係が新潟日報の記事を公表

ニュース係が、自宅や学校で新潟日報の記事を読み、気になった記事を、毎日の学級朝会で紹介している。タイムリーなニュースを聞き、その日ニュース番組や新聞を見て来なかった子も世の中の動きを知る良い機会となっている。

5 学年

○もりもりワークシート

新聞の記事を読み、内容に即した問題を解いた。普段学習している国語のワークテストとは一味違い、様々なジャンルの記事に親しむことができた。ワークシートは、家庭学習としても取り組んだ。児童は、「家の人と記事について話をした。」「漢字を教えてもらった。」などと話しており、親子で新聞に親しむ機会にもなったようだ。

○新聞 DE 一句

季節感の感じられる記事やタイムリーな記事を題材に、俳句作りをした。児童は、用意された複数の記事から興味の惹かれた記事を選び、見出しや記事、写真をヒントにして、思い思いに言葉を選んでいった。作った俳句は、俳句コーナーに掲示して、学年で句会を開いた。児童は、友達の俳句のよさを伝えたり、自分のおすすめの俳句を読んでもらったりして、日本の文化に親しんでいた。

6 学年

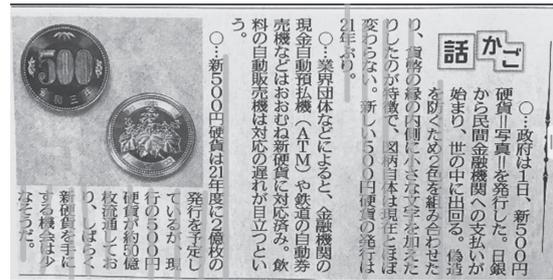
○新潟日報ピックアップ記事コーナー



6年1組と2組の教室の間に、新聞記事を掲示するコーナーを作った。新潟日報の記事の中から、児童が興味をもちそうな記事やニックちゃんクイズを掲示した。夏休み明けにパラリンピックの記事をタイムリーに掲示したことで、新潟県出身メダリストに興味をもち、障害をもつ人たちへの理解にもつながった。また、社会科の学習で、国会について学習したことを生かして、政治的な記事を掲示することもあった。教科書上での学習で終わらず、実際の生活の中にも政治が深く結びついていることを実感することができた。

○記事を読んで意見交換

タブレットのロイロノート（学習アプリ）を使って、担任が提示した新聞記事を読み、友達と伝え合う活動を行った。記事の中で、とくに興味をもった部分や大切だと思った部分に蛍光マーカーで線を引き、記事の概要を確認しながら自分の考えや感想を述べ合った。また、記事には6年生段階でも難しい言葉が使われていることがあるが、グループで「これってどういうこと？」「こういう意味で合っている？」など、グループ全体で学びを共有している姿も見られた。世の中で起きている出来事を知るよいきっかけになったのはもちろんだが、友達と記事について考えや感想を伝え合い、認め合うことにもつながっている。



② 放送委員会の取組

放送委員の発案から、新聞紹介が新たにスタートした。給食時の校内放送で、「ニックちゃんクイズ」と「今日の気になる新聞記事紹介」のコーナーが立ち上がった。

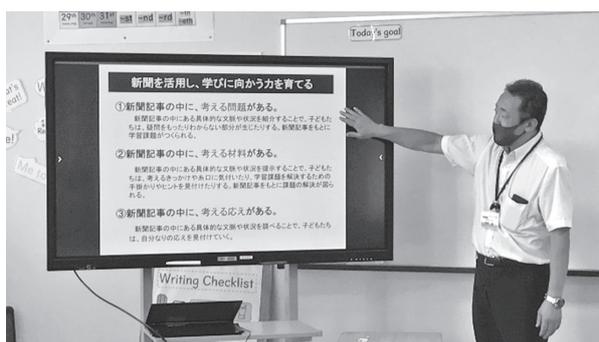


(3) 職員研修

7月 「新聞を活用した授業づくり」研修会

・授業づくり全体会①

指導者 新潟県NIEアドバイザー 新潟市立両川小学校 中村 康 様



2年次の研修会ということで、前半は具体的に授業の場でどのような新聞の活用が考えられるかについて学んだ。

前半は、中村様自身のSDGsを扱った授業実践をもとに、どのような新聞記事を、どのように活用していくとよいか、学習過程ごとに教えていただき、たくさんのご示唆をいただいた。

後半には、前半のご指導・ご示唆をもとに、NIE実践発表会で予定している本時を取り上げ、全職員でアイデアや工夫点を出し合いながら授業を構想する研修を行った。中村様からも、豊富な経験から、たくさんのおアドバイスをいただいた。

8月～10月 授業づくり全体会②③

7月の全職員での授業構想研修を生かし、8月と10月には、全職員で授業を構想する『授業づくり全体会』を行った。下学年及び上学年に分かれ、新聞記事の選定や効果的な生かし方、授業者の悩み等に対して、アイデアや意見を出し合った。また、模擬授業会も行い、より効果的な新聞記事の提示の仕方や研究主題に沿った手立ての講じ方について、研修を深めた。

3 授業実践

(1) 実践1：第3学年1組 算数科「しりょうのせいり」

指導者 教諭 宮澤 雅史

① 本時のねらい

東京オリンピックで日本や外国が獲得したメダルの数を並列棒グラフや積み上げ棒グラフで表現し、グラフから分かったことを読み取ったり、伝えたりすることができ、それぞれのグラフの特徴が分かる。

② 使用した新聞記事

2021年8月9日 新潟日報 「若手躍進 最高成績に」

③ 授業の概要

国別のメダル獲得数の表について、どうしたら一目見ただけでメダルの数や種類を比べられるかという児童の興味関心を引き出し、本時の課題を設定した。

その後、表からグラフを作り、比較した。グラフでメダルの総数や種類ごとの数を比較し、読み取ったことを友達と交流し、自分の考えを確かめたり、修正したりする機会とした。さらに全体交流の中で、2種類のグラフの特徴に応じた読み取りができていた児童を抽出することで、それぞれのグラフの特徴の理解につなげた。

【東京五輪】 最終獲得数		金	銀	銅	計
米	国	39	41	33	113
中	国	38	32	18	88
日	本	27	14	17	58
英	本	22	21	22	65
ロシア	国	20	28	23	71
オーストラリア	州	17	7	22	46
フランス	国	10	12	14	36
ドイツ	国	10	12	11	33
イタリア	国	10	11	16	37
カナダ	国	7	6	11	24
ブラジル	国	7	6	8	21
ニュージーランド	国	7	6	7	20
キューバ	国	7	3	5	15
ハンガリー	国	6	7	7	20
韓国	国	6	4	10	20
ポーランド	国	4	5	5	14
チェコ	国	4	4	3	11
ケニア	国	4	4	2	10
ノルウェー	国	4	2	2	8

④ 授業の成果と課題

ア 課題設定について

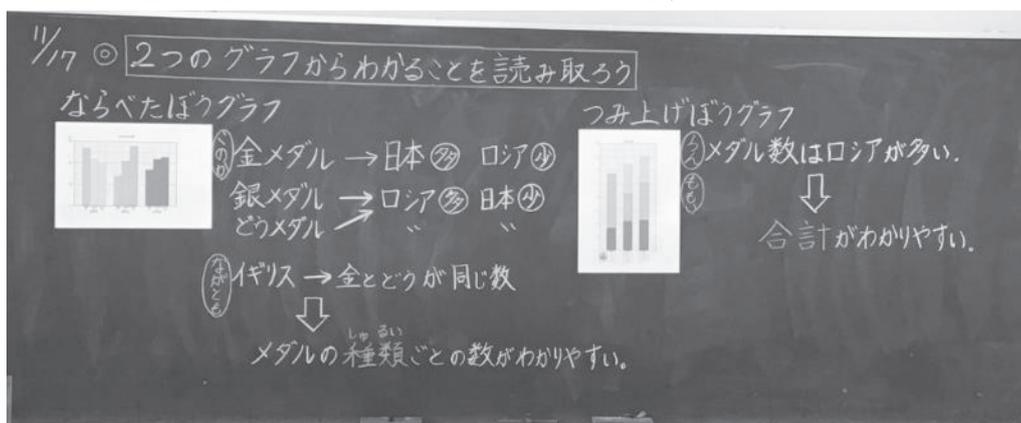
- ・夏休み中に盛り上がった東京オリンピックでの獲得メダル数を提示したことで、児童の興味関心を引くことができた。国別やメダルの種類別の比較をするためにグラフをかきたいという気持ちを高めることができた。

イ 学びの調整について

- ・友達と意見交流する場面では、相違点に注目しながら聞き合うことで、自分の考えを更新していく機会としたかったが、自分の意見に固執し、



友達の意見を取り入れていこうとする姿勢があまり見られなかった。



(2) 実践2：第5学年1組 社会科「これからの食料生産」

指導者 教諭 河村 紋子

① 本時のねらい

未来の食について、生産者の取組と消費者としての行動を考えることを通して、これからの食料生産の発展には生産者・消費者両方の努力や協力が必要であることを理解することができる。

② 使用した新聞記事

2021年8月14日 新潟日報 「『100年後』見据えて改革」他

③ 授業の概要

導入では、新潟県内の食料生産の取組の記事を提示し、生産者の思いを再確認した。「生産者の努力だけでよいのか」を問うと、児童から「消費者も」と声が上がった。そこで、本時の課題を設定した。展開では、買いたい物の順位を、これまでに学習した食糧生産の課題やその解消に向けた取組と消費者としての立場をつなげて考える姿が見られた。後半で



は、考えを交流し合い、3つの品物の長所や短所や、消費と生産がつながっていることを確認した。その後、未来を意識づけるために新聞記事を提示し、未来の食のためには消費者の考えが大切であることをまとめた。

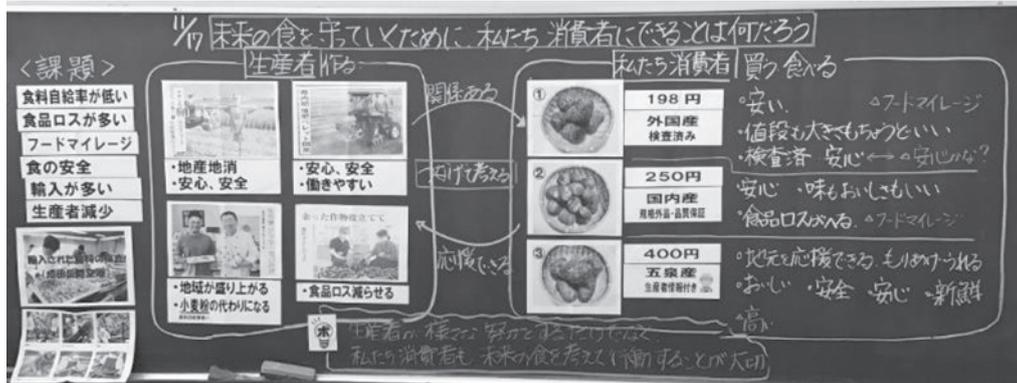
④ 授業の成果と課題

ア 課題設定について

- ・新聞記事を提示したことで、身近な所でも様々な取組が行われており、生産者の強い思いを再確認したり、自分たちにもできることを考えようとする意欲を高めたりできた。
- ・課題を「未来の食」ではなく、「未来の食の安定」とした方が、考えが焦点化されより深い学びにつながった。

イ 学びの調整について

- ・品物の情報の提示の仕方を工夫したり、意見交流でそれぞれの考えを表出させたりしたことで、児童の考えを広げることができた。
- ・「どれが1番売れているか」と問うことで、客観的に考えることができ、より意見や本音を出しやすくなった。



4 成果

(1) 課題設定について

- ・授業の導入場面で新聞を扱うことで、学習内容に興味をもたせることができた。新聞がきっかけで学習が進むことに、児童は新鮮さを感じていた。
- ・身近な県内の出来事を取り上げた新聞記事を扱うことで、これまでに学習した内容と自分とをつなげて考えることができた。自分事として考えるきっかけになり、意欲が高まった。
- ・新聞記事には、児童が日常で使わないような表現が出てくる。教科書には出てこない例も見られたので、実際の生活に近い言葉の使い方が学習できた。

(2) 学びの調整について

- ・新聞から得られた情報により、自分の物事の見方や考え方が広がっていくことで、学習を試行錯誤する幅も広がり、学びの調整につながると感じた。
- ・新聞には、自分が当たり前だと思っていた視点以外の立場の考え方が書かれている場合がある。ある課題に対して多角的に捉える必要があることに気付くことができた。

(3) その他

- ・日ごろから新聞に触れさせることで、「新聞を読めばこんなことが分かるのか!」という実感につながる。より新聞を身近に感じられるよう、今後も新聞を活用していきたい。

(中山 智美)